

報 会

ち か ら

静岡市相撲連盟
会長 川上明廣
事務局 村越浩二
平成31年4月
379号

静岡相撲部OBちから会
昭和30年 ちから会創立
昭和39年 11月 初刊
会長 細倉涼太
事務局 大江弘文

☆ 明治22年2月21日 藩立駿府病院開院

2019年静岡市立静岡病院は創立150周年を迎えます。今から150年前、静岡市立静岡病院の前身である藩立駿府病院が開院しました。

初代病院長の林 研海は、長崎・オランダ留学を通じてオランダ海軍軍医のヨハネス・ボンペ・ファン・メーデルフォールト先生の導きで西洋医学を学んだ秀英でした。すべての人に医療を 藩立駿府病院では、すべての人に平等な医療の実践をめざしました。また、志ある者には、身分のへだてなく医学教育を行うことを方針として掲げました。研海の病院長としての在籍は約2年間と短かったのですが、最新の西洋医学に加えて、開院と同時に公衆衛生事業として天然痘の予防接種も実施しました。市立静岡病院として数年間の空白を経て、明治9年に屋形町で再スタートした公立静岡病院。明治22年の静岡市制施行により、市立病院に移行。第2次大戦後は現在置に移転し、今日に至るまでこの地域の医療を一貫して支えてきました。そして平成28年4月1日、地方独立行政法人に移行しました。これからも、静岡市の基幹病院として高度医療、救命救急医療、災害時医療をはじめとする総合医療の提供、健康、医療情報の発信、次世代医療人の育成などを通じて、静岡市民の健康を支えてまいります。

☆ 「ガン」と共に ④

2月19日20日、21日の三日間かけて(月一回のペース)通算10回目目の抗がん剤投与を行う。8回目目の投与の頃先生が(ガンが薬に慣れてきているかも知れない)と言っていたが、案の定そのとおり少し大きくなっているとの事。3月12日から薬を変えて連日5日間(一回一時間)投与開始。28日間休んで4月9日から第2回目目の抗がん剤投与。また、21日間休んで第3回目目の投与を行う予定である。

入院以来、火、木、土、日と週4日身の回りの世話をしてくれている敏子さんには感謝、感謝、感謝病院まではバス、天気の良い日には自宅から自転車で40分位かかるとの事。特に国道過ぎてから御幸町の交

静岡 溪声俳句会

縄のれん出れば墨絵の月おぼろ
罫りの止みて湯宿のしじまなる
罫りやバス待つ人の皆無口
一盞の妻の手料理春惜しむ
臘夜に切り絵となるや山の峰
飛び石を譲る会釈や竹の秋

岩崎 安次
高橋 璋
加賀美 幸
名田 幸一
佐藤 康紀
永田 峰雄

春惜しむ我が生涯の五十坪 牧田 秀峰

差点を通り、病院までは勾配がきつく、汗ビツシリ本人も体の為には良いからと言っているのですが、頑張り！頑張り！と言ってやっつた。一時間過ぎた頃腰が痛いと言ってベッドの上に大の字、背中、腰、両腕を揉んでやる。どっちが病人か解らない。

◎4月9日(火) 抗がん剤投与の入院、今日から13日(土)までの五日間の2コースの①開始。投与の前先生からこんな話があった。「十ヶ月抗がん剤投与を行ってきたので骨髓に少しダメージが見られるので、(血液製造部)本来の八掛けの薬で行い、少しでも骨髓の負担を軽減したいとの事」。

◎4月10日(水) 雨、午前9時半2コースの②開始。10時半過ぎに無事終了。午後から床屋へ行く。
◎4月11日(木) 10時半2コースの③開始、11時40分無事終了。

◎4月12日(金) 雨、のち晴れ 午前10時半2コース④開始。11時40分無事終了。

◎4月13日(土) 10時半さいこの⑤投与終了

☆ 世界相撲大会「シニア」基準が変更！
今年度より、世界大会のシニア体重別級が変更され、国内大会も世界大会の基準となり、実施することになる。ジュニアの体重の変更はありません。

新しく設定されたのは、中量級と重量級の間に、『軽重量級』が加わり、次の6階級となった。

- 超軽量級 (50 kg未満)
- 軽量級 (65 kg未満)
- 中量級 (65 kg以上・73 kg未満)
- 新 軽重量級 (73 kg以上・80 kg未満)
- 重量級 (80 kg以上)
- 無差別級

世界大会は超軽量級がないので、世界大会を目指すには軽量級で出場することとなる。第7回国際女子選抜堺大会が、4月14日に開催されるがこの大会の入賞者が、世界大会(10月ハワイ開催)日本代表選考会(5月12日富山県射水市)に参加する。

H30年度ちから会費納入有難うございます。
平野健一・倉沢澄夫・新井正司・川上明廣・大江弘文・小林勝彦・伏見 勝・近藤久男・宮城 智・伊東稔浩 吉永俊彦 (順不同・敬称略)

☆ 治る薬、治らない薬

我々から协会会员も70歳を回った方々が多くなってきたいます。自分が入院中に偶々読んだ雑誌に載っていたのを目にし、皆さんに参考になるかどうか解りませんが一度読んでみてください。 (途中中略・抜粋)

飲み続けなければ治るものではありません。

飲んだら治るのが薬です。

「先生、この薬を飲めば『治る』んですよね」「そうですね、ただしちゃんと飲み続けて下さい。やめたらまた元に戻ってしまいますよ」

病院でよく見る患者と先生とのやりとりだが、なにか違和感を覚えないだろうか。本来、薬とは飲めば治るもの、言い換えれば、病気が治れば、飲まなくてもよくなるのが薬のはずだ。しかし、医者たちは「飲み続けなければいけない」と言う。「薬というものを大きく分類すると、『病気を根本から治す薬』、痛み、発熱、下痢、吐き気、めまいなどを『対処療法的に抑える薬』、そして生活習慣病など『病気の根本は治せないけど、検査値を改善する薬』に分かれます。中でも現在もつとも使われているのが、この3番目の、病気の原因は治せないけど、飲み続けている生活習慣病の薬です。『飲み続けなければいけない薬とは、すなわち「治らない薬」である。一方で治る薬とは、服用期間が決められていて、終わりがあるもの、いつかは飲まなくてよくなるものと言える。

薬で血管は若返らない！

本来、「薬とは毒」であり、出来る事なら飲まないに越したことはない。だが、現実には、将来の病気の予防という名目のもと処方される薬の量は驚くべきものがある。平成28年4月〜平成29年3月の1年間に外来で処方(院外)された内服薬の数をみると、高血圧や糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の薬の多さが目を引く。

たとえば、降圧剤を見ると、カルシウム拮抗薬のアムロジピンの処方数は、なんと17億7100万錠にもものぼる。「自分も毎日二十一年近く2錠飲んでる。」ARBのオルメテックは5億5300万錠、ミカルデイスは4億8800万錠だった。

生活習慣病の薬は「一度飲み始めると一生飲み続けないといけない」と言われるが、治らない薬は、必然的に処方量も多くなる。

何の生活改善もしない場合、高血圧や糖尿病など多くは、薬を飲むのをやめればまた数値が上がってきます。生活習慣病の薬は『根本』を治せるわけではありません。

生活習慣病の薬は、症状がこれ以上進行しないように抑え、将来的な脳卒中、心筋梗塞などの合併症が出ないように数値をコントロールするためのもの、降圧

剤は血管を拡張、血流をよくすることはできても、ポロポロになった硬い血管を若いころのように柔らかくし、元に戻してくれるわけではない。

治らない薬を飲み続ける人が増える背景には、年々基準値が厳しくなっている点も見逃せない。血圧の基準値は、1948年時点では上が180未満下は110未満。(中略しますが)そして現在、日本高血圧学会が定める正常血圧は上が120〜129、下が80〜84である。ちよつと血圧が高いだけで『薬をしつかり飲んで下さい。』と薬を処方し、どんどん薬を増やすばかりで、薬を減らすことを考えない医師があまりにも多い。

薬は病気になった時に飲む、回復したら飲まない、2週間、長くとも4週間服用しても症状が改善しなかつたら病院で検査を受け、原因を突き止める、これが大切です。

毎日、何年も飲み続けて大丈夫ですかあなたの内臓寿命じわじわ縮める薬、結局別の病気になるだけです。

まず肝臓、腎臓に溜まる。ほぼすべての薬は肝臓で代謝され胆汁とともに腸管から排泄される。そのため肝臓と腎臓は薬剤濃度が高くなり、もつとも薬の影響を受けやすい臓器と言える。治らない薬を毎日、何年、何十年にわたって飲み続けた結果、知らず知らずのうちにあなたの内臓にはダメージが蓄されていく。

高齢者の場合、多剤併用になりやすく、服用している薬が6種類を超えると一気に薬物有害事象が増えることが明らかになっている。歳を重ねれば、だれでも多くの病気を抱えるため、内科、整形外科、循環器とどんどん診療科が増えていく。すると、それぞれの疾患に対する薬が処方されるので、あつという間に薬が6種類以上になってしまう。

複数種類の薬を飲み続けると、正直どの内臓にどんなダメージが起こるか、医者もわからない。「基本的に薬の臨床試験は、一つの薬に対して行われています。二つ以上の薬を飲んでどんな相互作用が起きるかの臨床試験はないので、何が起こるか予想がつかえません。知らない間にじわじわと体を蝕んでいる可能性も十分あります。生活習慣病など、飲み続ける薬のほとんどは、将来の脳卒中や心筋梗塞のリスクを下げる為に飲んでる。だが、治らない薬を飲んでいたことが原因で、別の病気になってしまえば元も子もない。

(終わり。)